

## 「地球研言語記述論集」第3号

### 序文

大西 正幸

「地球研言語記述論集」第3号が発刊されました。

長田さんの巻頭言にあるように、この論集の母体は、地球研のインダス・プロジェクト言語研究グループが毎月一度開催している、「言語記述研究会」です。この会は、言語記述を専門にした若手の研究者を中心に運営されています。研究会が組織されたのはインダス・プロジェクトが始まった2007年4月で、その後、毎年新たなメンバーが加わり、ホームページも充実してきました。論集は2009年3月から、年に一冊のペースで出しています。今回の第3号発刊で、研究会の活動はちょうどまる4年の区切りがつかしました。

「論集」に掲載される論文・資料集については、定例の研究会での発表やメーリングリストを通して、メンバー同士での議論を繰り返しています。さらに、最終稿の前に、少なくとも2名のメンバーが細部まで読んでコメントする手続きを経ています。それらは、必ずしも完結したものである必要はなく、研究の途中経過を示すようなものや、調査の途中で得られた貴重な資料なども含まれます。記述に終着点はなく、そのときどきの研究段階での里程標を残しておくことが何よりも大切だ、という考えに基づき、そうしたふつうの論集ではなかなか掲載されにくいようなものも、積極的に掲載することにはしているのです。

ところで、第1号と第2号では、私が、掲載された論文・資料集をひとつひとつ紹介していましたが、今回は、著者と対象言語・地域のリストを下に示すにとどめることにしました。本号に始めて寄稿した新たな著者としては、去年の4月に新たに言語記述研究会に加わった白田理人・山田真寛さん（およびその共著者の荻野千砂子・田窪行則さん）と、稲垣和也さんの共著者として言語地図作製を担当された、インダス・プロジェクトのメンバーで考古学者の寺村裕史さんです。他の著者や対象言語については、第1・2号の序文で紹介しました。それぞれの著者についての詳細は、ホームページ上の自己紹介文をご覧ください。幸いです。

今号で扱われる言語は、チベット・ビルマ諸語の2言語、パプア諸語の3言語、スーダンのアラビア語を上層言語とするクレオール、台湾のオーストロネシア語、そして日本語、琉球語の方言です。

鈴木 博之	カムチベット語嘎嘎塘・勺洛 [Zhollam] 方言 (チベットビルマ諸語)	中国 雲南省維西県
倉部 慶太	ジンポー(カチン)語(チベット・ビルマ諸語)	ミャンマー カチン州

仲尾 周一郎	ジュバ・アラビア語（クレオール）	南スーダン エクアトリア地域
野島 本泰	ブヌン語南部方言（オーストロネシア語族）	台湾中南部
	日本語座間市・相模原市方言	神奈川県座間市・相模原市
白田 理人・山田 真寛・荻野 千砂 子・田窪 行則	琉球語喜界島上嘉鉄方言	鹿児島県大島郡喜界町 （上嘉鉄集落）
千田 俊太郎	東シンプー諸語	パプアニューギニア シンプー州
寺村 裕史・ 稲垣 和也	シベ（ナゴヴィシ）語（南ブーゲンヴィル語族）	パプアニューギニア ブーゲンヴィル自治州
大西 正幸	ナーシオイ語（南ブーゲンヴィル語族）	パプアニューギニア ブーゲンヴィル自治州

今号もまた、多くの充実した論文・資料集を掲載することができました。執筆者の皆さん、建設的なコメントを寄せてくれたメンバーの皆さん、お疲れさまでした。そして、1ヶ月以上にわたって面倒な編集作業にかかりきりだった稲垣さん、どうもありがとうございました。